

科目ナンバリング		U-LAS00 10018 LJ34									
授業科目名 <英訳>		科学論Ⅰ Philosophy and History of Science I				担当者所属 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 青山 拓央			
群	人文・社会科学科目群			分野(分類)		哲学・思想(基礎)			使用言語		日本語
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	講義（対面授業科目）				
開講年度・ 開講期	2024・前期		曜時限	月5		配当学年	全回生	対象学生	全学向		
[授業の概要・目的]											
本授業では、ある具体的なテーマに関し、科学が何を見いだしてきたか、そして、哲学では同テーマをどのように扱ってきたかを解説し、その比較を通じて科学の特性を理解していきます（担当教員の専門は哲学）。具体的なテーマとしてはとくに「自由意志」を取り上げ、それにまつわるさまざまな科学史・哲学史（とりわけホッブズ以降の約350年ほどの近現代哲学史）を参照していきます。「人間の意志ではなく脳が行為をさせている」といった、近年耳にする機会の多い言説が、どれだけの正当性を持っているのか、さらに、そもそもこの言説は何を「意味して」いるのか、こうした問いを掘り下げることで、科学論の一つの在りかたを提示します。											
[到達目標]											
「自由意志」の科学と哲学をめぐる諸研究を知り、その論点を学ぶとともに、科学的研究の特性を、歴史をふまえて理解できるようになる。											
[授業計画と内容]											
下記の5つのテーマに沿って、「科学とは何か」「自由とは何か」を考えます（授業の進行具合に応じて、どのテーマに何週をあてるかを変更する場合があります）。											
1．ガイダンス：諸学問の特性について（第1週） 2．自由意志の科学と哲学#1（第2週～第5週） （リベットやメレなどの議論を紹介。） 3．因果関係と自然科学について（第6週～第9週） 4．自由意志の科学と哲学#2（第10週～第13週） （インワーゲンやケインなどの議論を紹介。） 5．総括と、担当教員自身の見解について（第14週）											
第16週：フィードバック											
[履修要件]											
特になし											
[成績評価の方法・観点]											
レポートにて成績を評価します。採点基準はやや厳しめで、講義内容を十分に理解しているかと、自分の考えを論理的に説明しているかを中心的に評価します。											
[教科書]											
使用しない											
-----科学論Ⅰ(2)へ続く↓↓↓-----											

科学論Ⅰ(2)

[参考書等]

(参考書)

青山拓央 『時間と自由意志:自由は存在するか』 (筑摩書房) ISBN:978-4480847454

[授業外学修(予習・復習)等]

授業前の予習はとくに必要ではありませんが、授業後の復習は十分に行なってください。

[その他(オフィスアワー等)]

教室収容人数に応じて、受講者を制限することがあります。授業での積極的な質問・発言を期待します。